

2019年度スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
山梨県地域ワークショップ 報告書

日時	2020（令和2）年2月14日（金）14：35－14：55
会場	山梨県総合教育センター
参加者	約300名 （県下小学校、中学校、高高等学校、特別支援学校の体育科・保健体育課担当教員 山梨県教育委員会、日本体育大学）
実践発表校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校：「オリンピック・パラリンピックを通じたスポーツに対する興味関心の向上」 南アルプス市立小笠原小学校 松田晃一</li> <li>・中学校：「オリンピック・パラリンピックを身近に感じよう！」 北杜市立小淵沢中学校 新海和哉</li> <li>・高等学校：「スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成」 県立中央高等学校 塩島朋子</li> <li>・特別支援学校：「オリンピック、パラリンピックのスポーツ種目を体験しよう」 県立ろう学校 佐久間貴規</li> </ul>
内容	<p>山梨県学校体育研究大会と兼ねて開催され、校種別の各分科会の中で推進校の実践発表がなされた。</p> <p>小笠原小学校では、全学年が道徳で授業を実施したほか、運動会や校内読書週間などの学校行事と関連させた継続的な取り組みが報告された。小淵沢中学校では、全学年保健体育科「体づくり運動」の授業においてボッチャを実施し、特別支援学校との居住地交流や体育委員会でのオリンピック・パラリンピッククイズの掲示について報告があった。県立中央高等学校は定時制の学校であり、学園祭体育部門においてボッチャの要素を取り入れた種目を実施したほか、道徳「命の授業」での取り組みが報告された。県立ろう学校では、体育授業におけるオリンピック・パラリンピック学習およびビームライフル競技体験について報告があった。</p> <p>実践発表後には教育庁より本事業の説明と次年度も継続して事業が行われることが案内され、推進校以外の各学校においてもオリンピック・パラリンピック教育を実施していただくよう伝達があった。</p>



分科会（高校）会場の様子



実践発表の様子